

Table of Contents

Day 1 Introduction I: Introduction の役割 ①&②	3
Day 2 Introduction II: Introduction の役割 ③	5
Day 3 Introduction III: Introduction の役割 ④ & ⑤	7
Day 4 Introduction IV: Introduction の役割 ⑥	9
Day 5 Body I: Body の展開 ①	13
Day 6 Body II: Body の展開 ②	15
Day 7 Body III: Body の展開 ③	17
Day 8 Body IV: Body の展開 ④ & ⑤	19
Day 9 Body V: Body の展開 ⑥	21
Day 10 Body VI: Body の展開 ⑦	23
Day 11 Body VII: Body の展開 ⑧	25
Day 12 Flow I:	27
Day 13 Flow II:	29
Day 14 総合課題	31
Day 15 Conclusion I: Conclusion の内容 ①&②	33
Day 16 Conclusion II: Conclusion の内容 ③&④	35
Day 17 Q&A	37
Day 18 Assessment I:	41
Day 19 Assessment II:	43
Day 20 スライドの作成	47

解答例は <https://www.penlanguage.com/answerdownload> からダウンロードしてください。

名前： _____ 日付： ____ / ____

Introduction I

▶ Introduction の役割

まず、プレゼンテーションの冒頭部分である Introduction から見ていくようにしましょう。全体の流れとしてみれば、Introduction の次に Body の部分があり、Conclusion の部分で締めくくるわけですが、これら 3 つの部分の役割をしっかりと押さえておくことが必要です。

Introduction の役割を知るには、そこで何をするかを考えてみることです。Introduction で行う行為には以下が含まれます。

- ① 注意を喚起する (attention-getting)
- ② 謝辞を述べる (expressing acknowledgment)
- ③ (エピソードなどを紹介しながら) 話題の背景を述べる (stating the background)
- ④ 話題に関連した有名な言葉などを引用する (quoting a topic-related statement)
- ⑤ 目的 (話題) を述べる (stating the purpose)
- ⑥ 述べる内容の順序を示す (stating the order of presentation)

これが Introduction の役割です。この中で必要不可欠なのは、①と⑤と⑥です。これらの役割を英語でうまくこなすには、慣用表現 (決まり文句、定型表現) に注目することです。注意を喚起するための慣用表現、謝辞を述べる際の慣用表現といった具合に、慣用表現をプレゼンテーションの流れ (flow) の中で使えるようにすることが、プレゼンテーション技法を身につける上で鍵になります。プレゼンテーションは言語的側面に注目すれば、慣用表現の連鎖 (formulaic chaining) として特徴づけることができます。

① 注意を喚起する

まず、何かを話す前に、相手の注意を喚起するでしょう。日常会話であれば、「あのさあ」「ねえ、聞いて」「ほら」などに当たる表現を使います。英語だと、Hey, Listen, Now, Look などが使われます。しかし、プレゼンテーションのような改まった状況では、こうした表現は失礼にあたり受け取られ、通常は、次のような表現で口火を切ることがよく見られます。

TASK



以下の表現を声に出して、読んでみましょう。

- ・ OK, I'd like to start now. (そろそろはじめさせていただきます)
- ・ OK, now, shall we begin? (では、そろそろはじめましょうか)

② 謝辞を述べる

プレゼンテーションを行なう際には、開始のシグナルの次に、感謝の気持ちを表すことも多々あります。感謝の場合には、「ここにお招きいただき感謝しています」とか「ここで話す機会をいただき光栄です」などに相当する、以下のような慣用表現をよく使います。

T
A
S
K



以下の表現を声に出して、読んでみましょう。

- ・ First of all, thank you so much for inviting me to this conference. (まず、この会議にお招きいただいたこと、感謝致します)
- ・ I'm very honored to have the opportunity to speak here. (ここで話しする機会をいただき、とても光栄です)

誰か特定の人に謝辞を述べる

- ・ I'd like to start by thanking Professor Johnson for giving me this opportunity to explain my ideas about language education. (私の言語教育観について話しする機会を与えていただいたことについて、まず、ジョンソン教授に感謝したいと思います)
- ・ Before I start, I'd like to thank all my classmates for giving me this opportunity to speak here. (まずはじめに、このような機会を与えてくれたクラスメートの皆さんに感謝します)

T
A
S
K



授業でプレゼンテーションをします。上記の表現を使って、自分の感謝の気持ちを表す言葉を書いてみよう。

名前：_____ 日付：____/____

Body I


▶ Body：論の展開

Introduction を終えると、いよいよ本論である Body に入ります。ここでは、話題として示したことについて論を展開するのが狙いです。論の展開においては、以下のようにさまざまなことを行います。

- ① 話題に言及する
- ② 定義する
- ③ 例示する
- ④ 意見を表明する
- ⑤ 疑念を述べる
- ⑥ エビデンスの提示
→ グラフや表を見せる／グラフの説明
- ⑦ エビデンスの関係
- ⑧ 調査の結果を述べる

① 話題に言及する

何かを語る際に、「～に関していえば」と話題に言及することがよくあります。その際に、使われる決まり文句は以下ようになります。

- 

<input type="checkbox"/> concerning	<input type="checkbox"/> with respect to
<input type="checkbox"/> regarding	<input type="checkbox"/> with reference to
<input type="checkbox"/> as far as A is concerned	

話題の関連でいえば、すでに触れたことに言及したいということもあるでしょう。そのシグナルになる慣用表現には次のようなものがあります。

- as I said [mentioned] earlier as I told you before
[before] let me repeat
 as mentioned [discussed] earlier

T
A
S
K



以下の表現を声に出して、読んでみましょう。

- ・ Concerning vocabulary learning in a second language, adults are generally better than young children. (第二言語の単語に関していえば、概して成人のほうが子どもよりも得意である)
- ・ With respect to social welfare, Japan is far behind other advanced countries. (社会福祉についていえば、日本は他の先進国よりずっと遅れている)
- ・ As I said earlier, children are not necessarily good language learners. (前に言ったように、子どもは必ずしもよい言語学習者とはいえない)

T
A
S
K



「話題に言及する」ための表現を使って、以下の内容を英語にしてみよう。

1. 税 (taxes) に関して言えば、所得税 (income tax) が最も高いのはアイスランドです。

2. 前に言ったように、貧困 (poverty) を無くすのはそんな簡単な話ではないです。

3. 私は環境問題に関する情報を得たいです。

名前：_____ 日付：____/____

Conclusion I

▶ Conclusion：要約・結論を述べる

最後に要約し、結論を述べ、そして締めくくる Conclusion についてです。Conclusion で話す内容は、以下の 4 つにまとめられます。

- ① 要約する（発表のポイントのみを繰り返し述べる）。
- ② 提案（recommendation）や推奨・推薦・忠告を行う。
- ③ 結論を述べる（文字通り「最後の一言」を述べる）。
- ④ 締めくくる（感謝の意を表すと同時に、通常は質疑応答に入るためのシグナルを送る）。

プレゼンテーションの基本は、論点の繰り返しにあります。“State what you're going to say (introduction), state what to say (body), and state what you've said. (conclusion)” で、3 回ポイントを繰り返せば、聞き手にはプレゼンテーションの内容が伝わるはずですが、要約では話したポイントを再度言うということです。

① 要約する

まず、これまで述べてきたことを要約します。その際に役立つ表現は次の通りです。要約のポイントが 3 点あれば、それを First, … Second, … (And) third, … と列挙する方法が一般的です。

 To sum up

 To recapitulate then

 To wrap up

 To recap

② 提案（推奨・推薦・忠告）

プレゼンテーションの多くは、ある種の提案（recommendation）を行うことがあります。その場合の動詞は recommend（推薦する、推奨する、忠告する）と urge（強く勧める、促す）の 2 つです。また、should のような助動詞を使うことも可能です。

 I strongly recommend that

 We would recommend that

 I urge you to

 (I think) you should

以下は元英国首相 Boris Johnson (2020 3/23) の 国民に向けたテレビ演説 (新型コロナ拡大防止のための外出禁止令) からの抜粋です。助動詞 should の使い方に注目しましょう。「ぜひ~してほしい」と国民の協力を訴えかけるのに should を用いています。Stay home を訴えかけているわけですが、買い物、運動、薬の調達など必要最小限の場合に限り、家を出ることが許されると述べた上で、次のように述べています。

These are the only reasons you should leave your home. You should not be meeting friends. If your friends ask you to meet, you should say no. You should not be meeting family members who do not live in your home. You should not be going shopping except for essentials like food and medicine, and you should do this as little as you can. And use food delivery services where you can.



「環境を守ろう！」を話題にして、上記の文章のように、"should" や "urge" を使って英文を書いてみよう。
